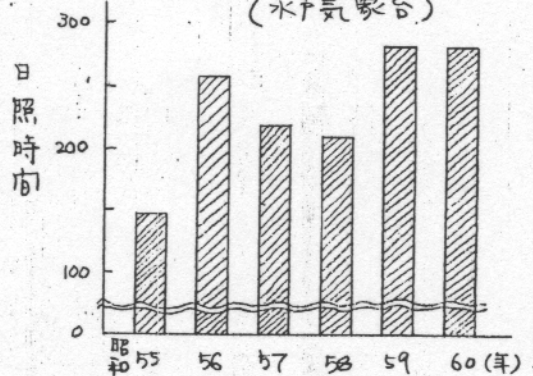


内水試
かわら版
70号

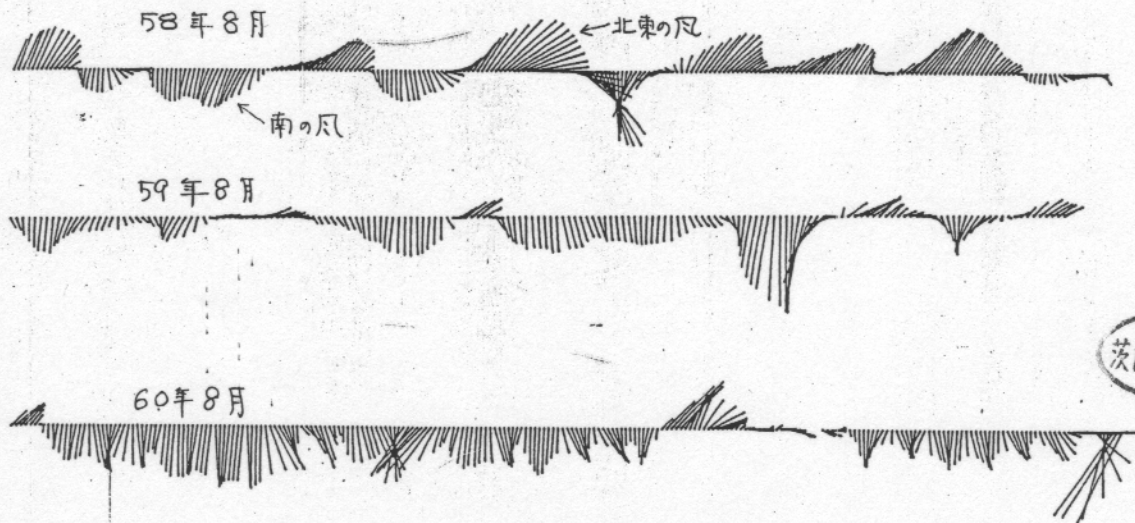
少なかった
酸欠

十月も末になり、霞ヶ浦の水温も二十度を割るようになりました。細いけす漁場での酸欠も、もう心配がなくなりました。
今年の夏は暑く、晴天の目が続きました。下の図は、過去五年間の、八月におけるエ浦での日照時間の変化をみたものです。昨年と同様に晴天の目か

エ浦の日照時間(8月)
(水気象台)



多いことが判ります。このように、今年の夏は暑く、晴天の目が多かったにも関わらず、酸欠がなかったのは、何故でしょう。下の図は、内水試験屋上で観測した、五十八、五十九、六十年の、八月の風について調べた結果です。



茨内水試図

風と酸欠との関係については、何度も書いてきましたが、今年は、昨年と同じく、南寄りの風が多く吹いています。ちなみに、北寄りの風が多かった五十八年には、牛渡田尻、江川漁場で酸欠死が発生していました。また、今年のアオコの分布には偏りがみられ、特に、高浜入りに多いといつたとを、かわら版48号に書きました。このアオコの分布も、酸欠の少なかつたのも、南寄りの風が多かつたためと思われれます。